

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0532 ◆◆◆

19/05/08

【 予断許さぬ 5 月相場、4 月は 5 年ぶりの小変動 】

今年の 1 月、月間を通した変動は 5.90 円を記録し、なかなか大きな動きが観測されたものの、以降はジリ貧。先日終了した 4 月相場は、月間変動がついに 2 円以下、1.61 円にとどまっている。ちなみに、これは 2014 年 6 月(同 1.56 円)以来、5 年ぶりの小変動だ。そんな 4 月相場を受けた、足もと 5 月の動静について恒例となっている過去の経験則をもとに以下で考えてみた。果たして、先月の反動ともいえるような動きはあるのだろうか。

◎5 月相場、「データに現れない『荒っぽい価格変動』」も少なくない

史上最長になる 10 連休もの長期休暇となった日本のゴールデンウィークだが、為替市場は結果として「大山鳴動して鼠一匹」。事前に懸念された今年 1 月のような「フラッシュクラッシュ(瞬間的暴落)」は観測されておらず、取り敢えず最悪の事態は免れたまま終了している。

前段で指摘した「4 月の月間変動幅」に加え、先の「小動きに終わったGW相場」という 2 つのエピソードだけで、今年の 4 月相場が如何に小動きだったのか、その一端がわかろうというものだが、敢えていまひとつのエピソードを重ねてみたい。

それは、4 月だけでなく、先週末の 5 月 3 日まで、各営業日のNYクローズを拾っていくと、111.00-112.20 円のレンジに収まっている(3 月 29 日には 110.83 円、5 月 6 日は 110.87 円だった)。1 カ月以上の長期に及び、ほぼ横ばいに近い推移をたどっていたと言っても間違いではないのかもしれない。

ともかく、そうした 4 月相場を受けた 5 月相場だが、まず 1990 年以降の勝敗表を調べてみると、29 年間で 15 勝 14 敗。ほぼ互角の内容であり、明確な方向性があるとは言えないようだ。しかし、さらに突っ込んで調べてみると、5 月相場は年間を通して、かなり荒れ模様の展開を辿ることが少なくないという傾向がうかがえる。

とくに近年その傾向が強くなり、実際に幾つか例を上げると、2004 年と 2006 年、2013 年はいずれも年間 3 位の月間変動幅、2015 年は同 2 位となっているほか、2010 年は実に年間 1 位の変動を記録していた。また、2017 年は月間変動幅こそ 4.14 円で年間 6 位に留まったが、実は月初の 111 円レベルから月間高値 114.37 円まで上昇、そののち再び軟化して月末には 110.20 円台まで下落するという「行って来い」。なかなか激しい上下動をたどっているし、昨 2018 年も似たような往来相場で、往復の価格変動はトータル 7 円近くにも達している。

先で記述した「5 月相場は幾つかの意味で荒っぽい変動が多い」— というのは、そうした意味も含む。まだ始まったばかりの 5 月相場だが、「変動幅」というデータに現れないところで大きく乱高下するなど、予断の許さない一カ月になる気もしないではない。

最後に、過去の事象、ニュースなどを振り返った場合、5 月は国際的なもの重要な出来事が多発しているが、そのなかでもとくに注目に値するのは北朝鮮情勢に関する要因だろうか。たとえば、昨年を例に挙げても、「北朝鮮による、いわゆる『瀬取り』行為が公式に初めて確認される」、「トランプ米大統領が直前になり米朝首脳会談の破談通告(紆余曲折を経て、結局予定どおり 6 月 12 日に実施)」— などは 5 月の出来事だった。

一方で、先週末 5 月 4 日には「合計 9 発の飛翔体を発射」したことを受けて、北朝鮮ファクターへの関心が再び高まりつつあるのは周知のこと。ここから月末に向けて、北朝鮮情勢に関して歴史的な出来事が再び起こるなど、金融市場においても大きなリスク要因となりかねない気がしている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

